

NEWS (PRESS) RELEASE

平成30年7月24日
産業振興部観光商工課

タイトル	灯台ワールドサミット in 志摩が開催されます
概要	<p>1868(明治元)年に西洋式灯台の建設が始まってから今年で150年になるのを記念し、海上保安庁では各種の取り組みがなされています。そこで、志摩市をはじめとする全国の参観灯台を有する4つの自治体が発起人となり、『灯台ワールドサミット』を開催し、積極的な灯台を中心とした周辺の観光資源化を図り、歴史的灯台を次世代に引き継ぐための灯台の活用の促進を目的にシンポジウムなどを開催いたします。</p> <p>なお、安乗埼灯台については、日本で初めて回転式フレネル式のレンズが採用された灯台であり、今回のサミットでは、回転式フレネル式のレンズの生まれ故郷であるフランスから、ヴィンセント・ギグエノー氏に講師としてお越しいただき、ご講演いただく予定です。</p> <p>発起自治体【志摩市(三重県)、銚子市(千葉県)、御前崎市(静岡県)、出雲市(島根県)】</p>
実施日	平成30年11月10日(土)~11月11日(日) シンポジウム、レセプション11月10日、エクスカージョン11月11日
場所	シンポジウム 阿児アリーナ、 レセプション 安乗岬園地 エクスカージョン 大王埼灯台周辺
主催団体等	【主催】 一般財団法人自治総合センター 灯台ワールドサミット実行委員会 【後援(予定)】 観光庁、海上保安庁、三重県、志摩市観光協会 志摩市商工会、三重県外湾漁業協同組合 【協賛】 (公社)燈光会、(一財)日本航路標識協会

<p>講師（予定）</p>	<p>藤岡洋保（ふじおかひろやす） 東京工業大学名誉教授 講演テーマ「灯台に見る日本の近代」 プロフィール 1949年広島市生まれ。東京工業大学工学部建築学科卒業、同大学院理工学研究科修士課程・博士課程建築学専攻修了、工学博士。日本近代建築史専攻。建築における「日本的なもの」や、「空間」という概念導入の系譜など、建築思想とデザインについての研究や、近代建築家の研究、近代建築技術史、保存論を手がけ、歴史的建造物の保存にも関わる。主著に『表現者・堀口捨己 総合芸術の探求』（中央公論美術出版、2009）『近代建築史』（森北出版、2011）『明治神宮の建築 日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会、2018）など。2011年日本建築学会賞（論文）。2013年「建築と社会」賞。迎賓館赤坂離宮顧問。文化庁第二専門調査会会長</p> <p>ヴィンセント・ギグエノー（Vincent Guigueno） 講演テーマ「フランス式の灯台とフランスの灯台観光の現状」 プロフィール 1968年生まれ。エンジニアとして国立土木学校を卒業。1999年にソルボンヌ大学で歴史学の博士号取得、その2年後に博士号に基づき最初の書籍「14世紀から20世紀のフランスの海洋シグナルについて」を出版。それ以降 著名な写真家 Jean Guichard とのコラボレーションを含む灯台に関する7冊の本を出版している。2009年から2015年の間、フランス海洋事局の灯台遺産問題を担当。2012年には、パリのフランス海洋博物館での灯台専用の主要展覧会のキュレーター（管理職）を務める。灯台研究の第一人者であり、出版書籍はすべて灯台のもので世界的に有名。</p> <p>不動まゆう 講演テーマ「灯台の魅力分析」（基礎知識と魅力） プロフィール 灯台専門フリーペーパー「灯台どうだい？」編集長。自腹で世界各地の灯台を取材し発行している。灯台愛が溢れる誌面はテレビ番組でも紹介され、ラジオ出演、新聞、雑誌への掲載も多い。灯台愛好会「ライトハウ斯拉バーズ」に所属し、毎年「灯台フォーラム」を企画・運営する。「灯台」や「フレネルレンズ」の文化的価値を訴えながら、「100年後の海にも美しい灯台とレンズを残す」ことを目指して活動の幅を広げ続けている。著書『灯台はそそる』（光文社）、『灯台に恋したらどうだい?』（洋泉社） 本業は楽器学を専門とする学芸員。広島と熊本のハーフの東京生まれ。</p>
<p>お問合せ先</p>	<p>志摩市観光商工課 TEL 0599-44-0005</p>